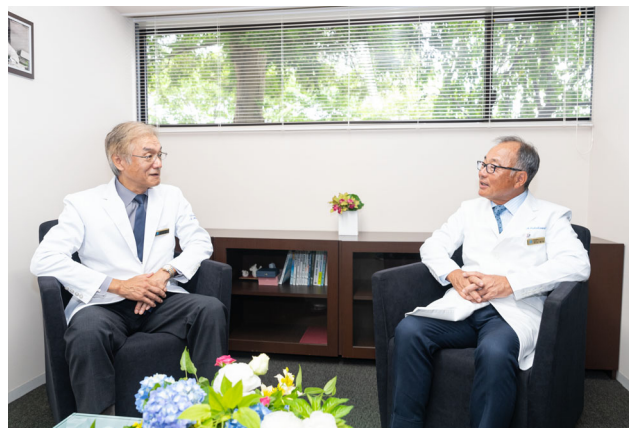


## 竹川病院 原田新院長と対談しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2023年の4月から、竹川病院の新院長として原田俊一先生をお迎えしました。新たなスタートを切る竹川病院のこれからについて原田先生と対談を行いましたので、その様子をお伝えします。



**竹川理事長** 原田先生は健育会グループに入って3年目で、グループのことをよく理解していただいています。また専門は脳外科ですがリハビリテーションにも造詣が深く、院長として医学指導しながら職員を引っ張ることができますから、安心して院長職を任せられると感じています。原田先生は、健育会グループについてどう感じていますか？

**原田院長** 健育会グループのコンセプトである「光り輝く民間病院」というフレーズを聞いた時、日本に多くある民間病院の中で「光り輝く」というのはどういうことなのか、と自分なりに考えました。そこで思ったのが、職員一人一人が輝いていること。患者さんはお年寄りの方や認知症の方でも感性が鋭く、職員が一生懸命働いているかどうかを肌で感じています。ですから院長として、職員の皆さんが輝けるようにサポートしていきたいと思っています。



**竹川理事長** その通りだと思います。高齢者の方や認知症の方ほど感性が鋭く、「自分のことを見てくれているか」を肌で感じています。今年から掲げている「愛情を持って親身な対応」というスローガンも、職員の皆さんが光り輝いて、やさしい眼差しで患者さんをしっかり見守れるようになってほしいという思いで打ち出しました。これは70周年を迎えた我々の課題でもあります。原田先生とはしっかり意見が一致していますから、全てをお任せして病院理念を実践していただくと改めて実感しました。

**原田院長** ありがとうございます。実践できるよう努めていきます。

**竹川理事長** 原田先生は脳外科がご専門ですね。脳外科や脳神経内科には本当に優秀な人材が多く、とても尊敬しています。私の専門は消化器内科ですが、脳外科とは真逆だなと医学生時代から思っていました。

**原田院長** とんでもないです。脳外科は手術での技術や職人技的な部分が大きく、学問的な高尚さでいえば、同じ脳でも脳神経内科や精神科の方が格は上だと思います。

**竹川理事長** とはいえ、医者に格の差なんてないですけどね。



**原田院長** 脳外科と消化器内科といえば、私はここ数年、脳腸相関に興味を持っています。ストレスなど脳で起こる様々なイベントが腸に影響を及ぼしたり、消化管ホルモンが脳への信号の役割を果たしたりと、脳と腸は密接に影響あっています。さらに腸をはじめとした臓器は体の中でも皮膚に匹敵するほど体積が多く、脳と比べても何倍もありますから、とても大事な存在だと改めて思うようになりました。腸には免疫細胞も多く集まっていますし、脳と腸は同じような働きをしていると思うととても面白いですね。

**竹川理事長** 私も医学生時代に、指導教官だった消化器内科の土屋雅春教授から、腸管には多くのリンパ節が存在し、自律神経と深く関係して微少循環を司っているということを教わりました。学問的にも原田先生と一致するところがあって嬉しいです。



**原田院長** 大変興味深い分野ですね。そして健育会グループは今年、70周年を迎えられました。長い間経営に携わってこられた竹川理事長に、経営の真髄についてお聞かせいただきたいです。

**竹川理事長** 理事長に就任した当時は、経営をよくわかっていませんでした。しかし尊敬する富士ゼロックス元会長の小林陽太郎氏が経済同友会に入ることを勧めてください、そこで本物の経営者の方たちと接する機会に恵まれ、経営を学びました。ただ、私は経営というのは学問ではなく、アートであり、サイエンスだと思っています。数年後の自分の経営を絵に描けることが大切ですから。芸術的なセンスがない人は、経営のセンスもないのではと思います。

**原田院長** 大変勉強になります。私からは、院長としての抱負を述べたいと思います。リハビリテーション病院の第一の目標は、機能を回復して、社会生活に戻ってもらうことです。ですが高齢者の方も多く、力及ばずに亡くなる方もいらっしゃいます。そうした中で「竹川病院で最期を迎えることができよかった」と思ってもらえるような病院にしていきたいと思っています。



**竹川理事長** 心豊かな病院ですね。そこそがグループ全体の理想のビジョンだと考えています。以前西伊豆病院で、肺がんの疑いがありながら検査でがんを見つけれない患者さんがいました。しかし、がんセンターへ転院してもらって肺がんが見つかったのです。その時、患者さんの奥様から「西伊豆病院に通院して本当によかった。謝らないでね」と言われてとても嬉しかった記憶があります。そういう病院を目指したいと思っています。

**原田院長** 非力ながら力になれればと思います。また、チーム医療もよりレベルアップさせていきたいと思っています。看護師や療法士は習う側面が微妙に違って、1人の患者さんに対しても見ている側面が少しずつ違います。ですから分担作業ではなく、オーバーラップする部分を持ちながら相互に協力していくことが大切。その部分をもっと育てていきたいですね。

**竹川理事長** ぜひその辺りも実践しながら、健育会グループが目指すチーム医療をバージョンアップしてほしいと思います。

---

#### 竹川病院 院長 原田俊一先生

出身大学 慶應義塾大学医学部（昭和57年卒）

専門分野 脳神経外科、救急医学、人間ドック

所属学会など

日本脳神経外科学会専門医、日本救急医学会指導医・専門医、

日本旅行医学会理事、国際医療連携機構理事長、

日本自動車連盟（JAF）モータースポーツ、メディカル部会長